

# 平成27年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

## 1 日 時

平成27年5月25日（月） 午前10時～12時

## 2 開催場所

千葉市美術館9階 講座室

## 3 出席者

（委員）神野委員長、早川副委員長、椎原委員、関委員、廣崎委員、高橋委員、大澤委員、竹下委員  
（事務局）生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、文化振興班主査、主任主事2名  
千葉市文化振興財団課長2名

## 4 議 題

次期千葉市文化芸術振興計画の骨子（案）について

## 5 議事の概要

次期千葉市文化芸術振興計画の骨子（案）について意見交換を行った。

## 6 会議経過

### 【神野委員長】

皆様おはようございます。前回私の議事の至らなさもありまして、振興会議の中で骨子案の決定まで至りませんでした。今日は、その辺を何とか解決したいと考えております。最初に確認をしたいと思うのですが、前回、事業ベースの話が色々出てきました。確かに、具体的な事業というのは重要なことだと思うんですけれども、今回は、今年度で今の振興計画が終了しますので、来年度以降の計画というものが、こういう項目建て、こういうようなことを重要視するという事で大丈夫かというところを皆さんにご確認いただいて、その部分で欠けているものや、この文言はふさわしくないのではないのかという所をご指摘いただいて、良い形に仕上げていきたいなと思っております。そして、前回議論に様々な形で出ました、例えばこういう戦略を持っていくべきではないのかという事業ベースの具体的な話というのは、ここで決定するわけには当然いかないものですから、計画の骨子案について検討する時間とは別に、意見という形で皆さんからお伺いをすることができたらと考えております。それではよろしくお願い致します。まず、この資料の内容、スケジュールに関して事務局より説明をお願い致します。

### <事務局説明①>

### 【神野委員長】

先ほどは言葉足らずで恐縮ですけれども、今日は骨子案ということで骨子の骨組みについてということですね。ちょっと質問なんですけれども、平成28年の補助金の募集を9月から行うということですが、これは現計画の枠内という考え方で大丈夫なんですね。

### 【布施文化振興課長】

はい。

### 【神野委員長】

それでは次に、次期文化芸術振興計画の骨子案について事務局から説明をお願いしたいと思います。

### <事務局説明②>

### 【神野委員長】

ありがとうございました。今日の骨子案の部分に関して言うならば、基本目標はもうすでに決まっているもので、重点目標以下の部分を確認するという事でよろしいですね。

これもまた復習になりますけれども、アンケート結果の分析を踏まえて、いくつかの支援というものがこの骨子案には反映されていて、前回の議論を踏まえて変更があったのは、“若者・こどもの文化芸術への参加”というのをこの重点目標の中にちゃんと盛り込み全体にかかわるものとして設定する、というのが大きなこととしてあります。全体としては、市民と芸術文化の体験を身近に近づけるということが非常に重要だと重視されている。もう一つは、千葉のアイデンティティをどのように構築するかという

こと、それも視野に入れていくべきだろうということがおそらく大きな期待としてある。

それを踏まえて、この重点目標、基本施策の部分というのがこの項目だけで足りるのか、あるいは子どもにとってふさわしいのかということに絞ってまず議論をしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

#### 【早川副委員長】

基本的な疑問でございます。今頃こんなことを申し上げて大変申し訳ないのですが、読書とか図書館とかそういうものはこの文化振興計画外と考えるのでしょうか。要するに、音楽家を育てる、小説家も育てる、私は今までそういうつもりでいたんですが、それでよろしいかどうかということですね。

なぜそんなことを言うのかというと、このアンケート、この結果が面白くて、このまとめの中では「千葉市を文化都市だと思いますか」という問いに対して、「思いません」が45%くらいなんです。「思う」というのが23%、その差について説明はないのですが、さらに見ていくと、「あんまり思わない」というのが16%くらいあるんですね。だから45%と16%を合わせると6割の市民が、「千葉市は文化都市ではない」と思っている。そういうことに対してどう計画を作っていくかという問題が一つ。それと、20年間千葉市を文化都市にしようとやってきたんだけど、アンケートの結果をみると、それが評価がされていないということになる。そうすると、私どもが考えている文化芸術振興計画には基礎が欠けているんじゃないか、その場合、子どもが本を読むとか、そういう読書とか図書館という問題についてもちょっと基本的な計画の中で考えてもいいのかなと、こういうことです。

アンケートの結果を見ると、ちぐはぐな結果も出ています。「文化都市って何ですか」というと、「歴史があり伝統が受け継がれているまち」という回答がおよそ60%、ほとんどの方は文化都市というものはそういうものだと、おそらく京都とかそういうイメージで回答するんだと思うんですが、じゃあ「具体的な活動として何をやってほしいか」に対する回答はイベントなんですよね。この2つの回答がどう結び付くのか、この2つの回答をどう捉えていいのかというように感じています。そういうことを全部ひっくるめて、子どもに読書をさせるとか読書会っていうのはこの中では場違いかなと思ってはいたのですが、そういうことでいいのかがどうかご検討をいただきたい、こういうことであります。

#### 【廣崎委員】

実は私も早川委員と一緒で、「文化ってなんだろう」とって事から考え初めまして、目に見えるものとはとても分かりやすいですが、例えば千葉市の歴史とか小説とか目に見えないものももちろん文化だなと思ったのです。そうすると今までそこに全然目が行っていなかったのじゃないかって、急にそういう風に思いました。

実はある講座に出ましたら、千葉市の研究をしている先生が、全然予算がないからみんな自費で出版されているそうです。自費出版だとしても高いので、なかなか買っていただけないということで、そういう市の歴史などは教育委員会の管轄なのかなとも思うのですが、一応、文化芸術という中で、やっぱり歴史も入るのじゃないかと思います。基本施策5に、「歴史の中の文化芸術的要素の発掘・活用」とありますが、この歴史とかそういう物自体の発掘にも目を向けることが出来たら嬉しいなと思いました。

【神野委員長】

従来の芸術文化というイメージだと、要はハイカルチャーとしての音楽・美術、あるいは演劇というものが視野に入っているわけですが、まあ、文化という所で捉えていけば、様々なものと、例えば文学の領域も入るでしょうし、文学の中にも非常に幅があるわけですね。そういったものを視野に入れるのか入れないのかということですが、今の廣崎委員のご意見は、やはりそういうことも含めて文化全体を分厚くしていくということも視野に入らないと千葉のアイデンティティというものは構築されないのではないか、という風に私は理解したんですけれども、この点について他にご意見がありましたら、よろしくをお願いします。

【早川副委員長】

アンケートの回答がどうこうではないんですが、具体的な計画を作る上でそういうことも廣崎委員がおっしゃったように取り込んでいくのか、そういうご議論をお願いしたいということです。例えば、そごうに書店があって、郷土のコーナーがあるんですね。千葉県とか千葉市の郷土史に関係した本がいっぱい置かれている書棚、スペースがあるんですね。デパートの書店とという意味ではないんですが、そういうものをうまく利用していくとか色々方法はあるんじゃないかと思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。各論はイメージを共有するためのネタとして考えていただいて、おそらく今のお話だと、要は他部局の文化にかかわる領域との連携を深めていくとか、そういうことを文言として基本施策に挙げていくのか、あるいは基本施策の下に入れていくのかどうかということですね。事務局の方から何かあればお願いします。

【布施文化振興課長】

読書や郷土の関係になりますが、実は今年教育委員会におきましても同じように生涯学習振興計画の作成年度になっております。また、学校教育の振興計画の作成年度でもございます。図書館等におきましても、子どもの読書活動推進計画という国の計画が今年第3次の計画策定なんですね。なので、同時並行をすれば各セクションが同じように来年度以降の行政計画を立てる年になっています。今、早川委員からお話があったようなことにつきましては、実はこの3月に地域において読書文化を作りあげていくという観点から計画を策定しているところであります。ただ、文化振興課がどこまでそれに踏み込んでいくのかということは、確かにあるかと思えます。

本日、自由闊達なご議論をしていただき、最終的に文化振興課の策定する計画にどのような表現でどの程度盛り込んでいくのか、例えば、「関係部局と連携を図りながら子供たちのために…」というような文書表現にするのもありますし、今後他の課で年度以降何か新しい事業を考えているのであれば、そういったものを文化芸術振興計画の中に具体的な事業として盛り込んでいくということも考えられると思います。その辺ご議論いただくのは、今後10月、11月頃の素案あるいは原案の時にお願いしたいと思います。本日または今後頂いたご議論を庁内の関係課の方に打診をしながら、事業化が出来るものなのか、事業化について考えていくものなのか、または、文書表現として計画に盛り込んだ方がいいのかなど調整をさせていただければと考えております。したがって、廣崎委員からありました郷土の関係につ

きましても、文化財課が今年度新設されまして、加曾利貝塚や千葉氏の関係の足りない事について計画を策定している最中でございますので、そういった所と相談しながら、どちらの計画に記述を盛り込んでいくかという意見交換を庁内でさせて頂いて、ご提案させていただこうと考えております。

【早川副委員長】

一般の書店でそのように郷土ってものを浮き彫りにしてるので、我々の計画は少しそういったものを見習っていこう、参考にして力を入れていいんじゃないですかと、こういうことです。それからもう一つ、アンケート調査によると、75歳以上の老人がどんどん増えてくる。それなのに骨子案には老人向け何とかというの一言も入っていませんね。だからそれは各論の中でどう考えるかってことも問題点の一つとしてあると思います。

【竹下委員】

私の家のすぐそばにある生涯学習センターという所で2カ月に1回、千葉市内の若い演奏家の皆さんをお招きして、演奏会をおやりになっていて、それこそ大澤さんのご意見通りなんですね。「地元の芸術家をもっと大事にして発表の場を作って市民が楽しめる環境を作っていこう」という意味では生涯学習センターはよくおやりになっています。これまでのお話ですと、全般として明らかに縦割りが過ぎるのではないかという感想を持つんですけども、教育委員会で頑張っている事については、これも千葉市の文化芸術政策の成果の一つではないかということで、もっと誇りに思っていた方がいいのではないかと、私はよく思うんですね。

文化芸術については、もともと1970年代に田村明さんとか松下圭一さん、ああいう方々が神奈川県をフィールドに非常に幅広いイメージの展開をしているんですよ。住んでいる人が、「これからも長く住もうや」とか「ここに住んでとても幸せだった」という実感が持てるかが、実は文化政策の一番大きな骨子だということを経験して70年代の頃から発信しておられて、私も非常に共感を得ます。

一昨日も市長さんとお喋りした時に、加曾利貝塚を「世界的にも誇る貝塚・古代遺跡で、その意味では千葉市ほど厚い歴史を持っている市というのは他にないのではないかと誇っておられまして、そういうものをもっと子ども達にも感じてもらう、これこそが政策なのではないかと思えます。本をよく読んでもらおうというのも一つの手だと思うんですけど、そういうものも含めて「やっぱり千葉市に住んで良かった」と誇りに思えるってことを我々としては積極的にリークしていかなければいけないのではないかなと思うんですね。そういう意味で、教育委員会畑のことについてもこういう政策の中には是非意見を取り入れて、文化振興の一部としておやりになったらどうかと思っております。

【早川副委員長】

元千葉日報社の社長さんで土屋さんという方がいらっしゃいましたね、その方も「加曾利貝塚を世界遺産に」と十何年前から言っていたんです。みなさん言っていたんだけど、大変失礼だけれども千葉市もお金がなかったし周りも動かなかった。それが今度、熊谷市長が言うと、わあと盛り上がってくる。行政に課せられた課題というのは、大変重要だということ意識していただければということです。

#### 【椎原委員】

先週の金曜日に文化庁基本方針の4次答申が出ました。この会議も文化芸術振興基本法に則って地方自治体も文化芸術振興せよという流れの中でやっていますので、このマスタープランを、つまりは最初に4次答申で出てきたものがどれくらい反映されるのかということをもっと意識しないといけないかな、と思っています。あと、図書館の話ですが、文化芸術振興基本法が出来た時に生涯学習機関としての博物館・美術館に対する位置づけが問題になりました。それらを規定する博物館法っていうのは、もともと教育基本法の下にあります。美術館や博物館も文化芸術機関として位置づけられれば、図書館も可能かと思います。それは市が縦割りを解消しながら、やっていく必要があるかと思っています。ただ、図書館で何をやるかはもっと検討すべきです。その際、イギリスの図書館の事例は参考になるかと思っています。

4次答申を見てみると、産業や雇用などに重きを置いていますので、外国人観光客という視点も出てくるでしょう、例えば、加曾利貝塚には何かしらの外国人の観光客の視点も必要かと思っています。あと、オリンピックに関して言うならば、さまざまな地方自治体はどうしていくのか疑心暗鬼なところがあるかもしれないので、市は県と協議していただいて情報収集していただく必要があります。

#### 【関委員】

今日僕がパッと見た限り、アピールというかそれが鮮明に出ている気がするんですけど、例えば歴史を何で発掘活用するのかって考えると、千葉の歴史を知ることによって千葉市の人たちが生活しやすくなるだとか、それによって若者や年配の方とコミュニケーションがとりやすくなるだとかそういうことだかと思っています。例えば国際的なことをやるのにしても、海外の人とどのように僕たちがコミュニケーションをとっていかねばいけないのかということがあって、文化芸術というものがあるんじゃないかなと。今は字づらだけみると、「千葉はすごいんだぜ」って言いたいみたいなのところがあるような感じがしちゃうんですけども、僕はそういうことではなくて、どう文化芸術を発展させることによってどういう効果が生まれるのかという所まで踏み込んだ方がいいのかなと感じました。

#### 【高橋委員】

話がちょっとずれるかもしれませんが、先週レッドブルエアレースに12万人来場者があって、これは驚くべき数字で世界のレースでも12万人集めるのは初めてとのことでした。スポーツはちょっとなして考えた方がいいのかなとは思いますが、それだけ人を集めるポテンシャルがあるということで、幕張メッセも世界に発信しているんだけど、加曾利貝塚、それぞれの拠点で文化芸術の発信拠点地みたいなものになればいいかなというイメージで、芸術文化、スポーツも一緒に、いわゆる創造する場とか集う場、そういう場をこれから作っていかねばという意見です。

#### 【神野委員長】

ありがとうございます。皆様のご意見を伺うとおそらく、ここに書いてあることっていうのは多分間違っていないのだけれども、もう少し千葉らしさみたいなことに繋げていくには見せ方というか、ある種のブランディングじゃないかと思うんですね。

例えば、今レッドブルのエアレースの例が出ましたけれど、あの光景がテレビで出て千葉のイメージが相当変わったと思うんですね。年配の方には「こんな危険な事を」という方もいらっしゃいますけれど

も、そういうことをクリアして、事業として成功した。そこにはある種の新しさを追求する、ある種の自由みたいなことがあると思います。そうすると、適当な論理で言っていますが、加曾利貝塚を売り出すときも、「歴史資料としての加曾利貝塚」って言ってもあんまり注目されないですね。そうじゃなくて、昔の風習とか、ある種のオープンエアで共同生活があってというようなことと、例えばレッドブルエアレースの浜辺なんかを繋げて、千葉っていうのは都市環境と自然が非常に近接していて、そこにある種の自由があるみたいな、そういう戦略が全体を貫いていて、個々の項目の中で意識がそっちに向いていくみたいなことがあると、多分、千葉らしさというのが生まれてくるんじゃないかと思うんです。その時に、やはり何が重要なのか何が優先順位として高いのかということはどうシェアするのか、ということが多分すごく重要になってきていて、今までの縦割りだと、そのシェアがなかなか難しいだろうと。この中にも盛り込むとしたら、そういう文化芸術を通した戦略というものを部局横断して構築するということを目指して考えていってもいいような気がします。それを今後、基本施策5(1)「魅力ある資源の活用」の一項目として盛り込むのか、あるいは(1)(2)に並べて(3)として織り込むのか。私の方ではそのような受け取り方をさせていただきました。

先ほど椎原委員からありました文化庁の4次答申。文化芸術が産業とか雇用なんかに結びついていくという議論はイギリスを中心に非常に進んでいます。これも従来の文化芸術のイメージで捉えると、そういうものと結びつけるのはいかがなものかという考え方をする方もいらっしゃるんですけども、今は全体的にそういう方向に行っていて、先程の関委員のご指摘のように、社会のどこに文化芸術が位置付けられていくのかということと多分繋がるような気がします。その時に、早川委員のおっしゃっていた高齢者ってものが骨子案に全然謳われていないということもありますけれども、これはイギリスなんかですといわばソーシャルインクルージョン、社会的な包摂と言われ、あの世代をどうやって社会に関わらせるかということと、例えば美術館や博物館が積極的に旗振り役になることも必要になります。要は、社会構造をどういう風に文化現象に位置づけるのかということと非常に結びついているので、子どもが重要なんだけど、まあ頭に置きながら、文化芸術を通して社会を創っていくみたいなイメージをどこかに盛り込めたら、高齢者を排除しているという風には受け取れないし、まあ排除しようとする意図があるわけでもないと思いますので、いいんじゃないかという気がします。

#### 【早川副委員長】

骨子でのオリンピック等の振興計画の位置づけについて、今度の案では、千葉の文化を発信するとそういう風になっておりますので、そういう方向であれば私も大賛成であります。

幕張の海を飛行機が飛んで12万人の人が見てこれで大成功だって、イベントとしては大成功だと思うけれど文化振興計画というのはもっと長い視点でみないと意味がないと。イベントなんかは終わってしまえばそれでおしまいなんですから、そういうものを文化振興計画の中に入れるというのはいかがなものかなというのが私の意見であります。

#### 【椎原委員】

あの、加曾利貝塚の話ですが、加曾利貝塚は今のままじゃダメだと思います。市の方もいろんな都市の事業を見に行っていて欲しいです。例えば、静岡市とカンヌっていうのは姉妹都市で、ここ数年静岡で「シズカン」という文化イベントをやっています。その際、登呂遺跡では能の公演をやっています。静岡は

清水と合併して市域が広がったので、中心部だけじゃなくて、清水港のところで野外映画を上映したりしています。登呂遺跡もあるし、駿府城では県の事業、静岡芸術劇場 SPAC という劇団が野外劇を上演したりしています。委員長が言ったように、要するにブランドなんです。遺跡を活かすといっても、加曾利貝塚でだけじゃなくて他も巻き込んで何かやるっていうことを、そのような活動は、金沢などさまざまな所でやっていることを市の方も見て頂いて、これは出来るのではないかと考えておいてほしいです。それを継続性のある事業として姉妹都市なども活用しながらブランド化していければということです。

#### 【高橋委員】

基本施策5（1）③「若者文化サブカル等の新たな文化的資源の発掘・活用」が気になります。

芸術文化都市と発信するときに、例えばコスプレ好きなど世間から見ればちょっと異端な若者かなという若者たちを歓迎して受け入れる街であってもいいかなと思います。

例えば、流山か松戸ですか、コスプレDAYというのがあって、行政がサポートしながらコスプレの服を貸してあげたり写真撮影会を開いたり、そういった面白い取り組みをしているんです。新たに生まれた、年配の方が受け入れられない文化もみんなが共感して理解されるような街、そういったものを目指してもらえるといいかなと思います。それをどういう文言で反映させるとかそういうことではなくて、意見として理解してください。

#### 【竹下委員】

頂いた3月の市民意識調査の報告書を読むと、確かに、良いもの・最先端のものを見たいということもあるんですけど、もう一方で色濃く出てきているのは、もっと地味なところ、公民館やコミュニティセンターのホールを使ってやっていることを発表したいというのが、実は多かったということ。さらには、発表の機会だけではなくてそういう情報をもっと手に入れたいという要望がかなり色濃く出てきています。アンケートでは一番のメディアは市政だよりだっていうお答えですが、市政だよりってそんなにスペースがあるわけではありませんから、情報をもう少し公開するような工夫はできないか、そういうことが文化振興を考える上で非常に大きい役割を果たすんじゃないかと思います。飛行機が飛んでもいいし、歴史的に年に1回大きな演奏会があってももちろん結構なんですけれども、高齢化の中で定年退職した人達が街の中で楽しめるものをコツコツとやってきている、そういうものを応援できるような場と情報をもっと充実させてもらえないだろうかという要望はかなり色濃く出ているような感じがしました。

#### 【早川委員】

千葉市の街は、中心街があって半円でもって調整区域、緑の地域があってその奥に大型な住宅地がある、そうなっています。若い人が住んでいた頃は中心部や東京へも平気で出て行けたんですが、今はご覧のように高齢化しちゃいましたから、そんなに簡単に出ていけない。そうすると、住んでいる地域で飲み食いだけではなくて文化芸術的な活動もしなきゃいけない。千葉市の場合は特にそれが顕著に出ている。一番高齢化率が高いのは大宮台、次に千城台あたりですか。そういう人たちが地域で活動しているから、そういう配慮をしないとそういう方々の要望に答えられないんですよ。そういう千葉市の街の特性という問題についてもご配慮いただきたいということです。



【神野委員長】

例えば芸術文化活動の発表とそれを受け止め鑑賞するという関係性を構成しないと多分難しいと思います。私の研究室では、アートを通して団地の高齢者を社会に関わらせることをいかに可能にするかということに取り組んでいます。高齢の方で色々な習い事をやって発表の機会を求めている方というのは、見て聞いてもらいたいけれどお客さんが来ないって言うんです。やっぱりプロの奏家がやって例えばホールを満員にするためのミニチュア版を求めても意味がないと思うんですよね、全然性質が違うんですから。そうすると、要は自分の親密な関係性の中で、この人がそういうことをやっているのが見たい、聞きたい、あるいはそれについて語り合いたいという人たちの層を増やしていかないと地域での活動って意味がないと思うんですよね。残念ながら戦後の日本の社会がコミュニティの紐帯というのを非常に弱めてきた中で、個人個人が文化芸術に精進してそれを発表するときに人が来ない、それは当然なんですよ。なので、やっぱりそれを実現したいならば、コミュニティの在り様まで含めてちゃんと計画をしていかなければいけないと思います。そこを丁寧にしなければ、例えば発表の場所を作ろうが広報をいくらやろうが、多分人は来ないと思うんですよね。それも含めて、全体の中でどういう風に千葉市の中に文化芸術の位置付けをしていくかってことにすべきなんじゃないかと思います。そういうことを盛り込めるかどうかなんじゃないかと思います。

【丸島生活文化スポーツ部長】

竹下委員のおっしゃった場所と情報の件について、場に関しては基本施策の3「文化芸術を育む場を支える」、情報に関しても施策4（1）で「情報の効果的な収集・発信」で一応我々の骨子の中にも含んでおりますが、実際にその施策を考えるとときにはもう少しそこまで突っ込んで考えてほしい、ということでしょうか。

あと、早川副委員長がおっしゃっていた高齢者に関しては確かに記述はしてないんです。というのは、このアンケート結果からも分かるように、今千葉市で文化活動をしている方はほとんど中高年の方ですから、基本的に文化施策をやっていく上では中高年が基本的なターゲットだと我々は考えています。確かに、それをあえて頭出しをするかどうかというご議論はあるかとは思いますが。一方で、子どもや若者が今文化に親しんでないってことを我々は感じているので、若者子どもに関しては特出しをして重点施策としてやった方がいいんじゃないかということをお骨子案でご提案させて頂いています。ですから、高齢者を頭出しする必要があるのかどうかという部分と、それから場と情報収集に関してはこういう風にとというのがあればご意見をいただければと。

【早川副委員長】

私が言いたいのは頭出しして書くということではなく、具体的な個別の施策を組む上では十分に配慮した方がいいのではないですか、ということです。

【神野委員長】

子どもという部分が非常に弱いので前面に出したいというのが今事務局からの話にあって、それはそれでいいと思うんですけども、ニュアンスとして「あらゆる世代が」っていう所をもうちょっと強めていって、その中で子どもを中心に、他の世代も子どもの芸術参加を支えていくみたいなイメージなのか

なという風に思います。もし可能であればそういう方向で今後も調整していこうかなと思います。  
あと、場所や広報のことにに関して先ほど竹下委員の方からお話がありましたけれども、この文言をこうした方がいいのではないか、ということがあればお話を伺いたいなと思います。

#### 【竹下委員】

もちろん、基本施策4(1)の情報の効果的な収集・発信として盛り込まれていると思っているんですけど、やはり具体的な施策になりましたら一つ何らかの形で、「場所と情報を大事にしているんだよ」というニュアンスをもう少し前面に出していただいていいかなという気はします。

一般的な文言として、非常にそつがなく基本施策5・重点プロジェクトまで、漏れるものはないなっていう感じはするんですけども、その中で、情報の収集発信というのを具体的にどういう風にやっていますか、とされているのか、どういう風に血となり肉となるような形で活かしていくのか。

それから、やっぱり高齢化がこれから進み、65歳以上の人っていうのはだんだん動かなくなっていくという環境の中で、手近な所で文化芸術に浸りたいという要望ってこれからますます多くなっていくのではないのでしょうか。そういう意味で、これは項目として「中高年を大事にしているんだよ」ということを一言どこかに入れて頂きたいなと思います。

#### 【関委員】

私はアーティストですのでその観点から話しますが、場の力というのは非常に大いと感じます。例えばこの会議もここでやるのとコミュニティセンターでやるのでひよっとしたら違うかもしれないし、千葉城の見える所でやったらひよっとしたら面白い話になるのかもしれないということがあるんじゃないかと。例えば、東京でやる文化芸術イベントをこっちへ持ってきたら、場の力というものが活かされて、更にいいものになるということもおそらくはあると思います。

私は千葉がホームだと思っていますので、ここでは自分の家でやっている気分で文化芸術に携わるわけですし、ちょっとよそに行くと、「よしっ、他人の家でやるぞ」みたいな感じもあったりするんですよ。その場、その場所というものがアーティストにとってどういったものであるのかっていうこともひよっとしたら何かの宣伝材料になるのではないのかと思いました。

#### 【椎原委員】

今、骨子案におけるアンケートから見える現状と課題Eの反映を考えている中で、基本施策2「文化を創造する人材を育てる」でいうと、(1)文化芸術活動を楽しむ市民への支援(2)芸術家の発掘と育成と(3)文化芸術活動を支える人材の育成があります。子どもと若者の文化がこの施策2に入るのか、っていうと、(1)に含ませるのか、あるいは別個立てするかだと思います。

4次答申を見ると国が明確に「学校における芸術文化」と書いています。そうすると、ここにはある種の取り組みで“学校内”という言葉を入れる必要があると思いました。(1)市民への支援というのは、いわゆるアマチュアなどへの支援とすると、(2)育成にも「子ども」が見えて来ません。なので、重点目標っていうときに、やはりなんかしら学校教育とかとの関連を持った方がいいかと思います。まあ実際、(教育委員会が)タッチするのは芸術家を育てることではなくて、芸術の鑑賞教育あたりでしょうか。あと国はクリエイションとイマジネーションが創造力と想像力という言葉を使っているの、学校教育

なりの言葉を入れないと意味も入ってこないような気がします。だから人材育成っていう所で、それは素の教育なのか何なのかっていうことですね。市民って言葉の中に子どもが入るのか、今ちょっと見ていると分かりづらいなという風に思います。

【神野委員長】

先ほどの関委員の場のお話については、基本施策3（1）が文言としては挙がっているけれども、ニュアンスのようなもの、ある程度色を付けていかないと総話的なもので終わってしまうんだろーと思えます。多分そういう色を付けていくことっていうのは、先ほどの加曾利貝塚の話も含めて、いわゆる千葉らしさに回帰していくような気がします。そういう視点が重要なのではないかという問題提起として受け止めました。

椎原委員のご指摘は、学校教育との連携については、子どもとの関わりというところで非常に大きいので、それを、基本施策2の中に別項目として立てるべきではないか、今の（1）、（2）、（3）の中では十分に拾えない可能性がある、ということですね。

確かに部局の壁というのがまだ大きいのもかもしれませんけれども、例えば金沢市なんかでは、21世紀美術館へ必ず一回は義務教育課程の学校行事として行くということが施策としてちゃんと実現されているわけですね、文化芸術をどこに位置付けているかということと、学校教育の教育課程の中で行われる教育事業としても指定している。そういうことも含めて戦略的に見直す必要もあるのではないかということですね。例えば、千葉市美術館へも、市内の何校かがバスで訪問しているんですが、これを全校に拡大できないかなと思ったんですね。そういうことをやっぱり千葉市の文化芸術のプランとして、別項目で立ててもいいのではないかと、要はブランドとして出していく所に一つの基準になってもいいので、どうでしょう事務局の方は。

【文化振興課長】

学校教育の分野については、基本施策1（2）参加・体験型活動の推進②教育活動との連携に、それ以外については基本施策2（1）にという区別でありました。これが分かりづらいということであれば表現を変えるというのも考え方としてはあります。

【神野委員長】

ありがとうございました。

【大澤委員】

子どもの教育に関してですけども、もうちょっと明確に最初の項目として挙げた方がいいのではと思えます。学校教育において音楽鑑賞とかそういった鑑賞的なものは教育委員会の中でやっているんですが、その専門家は一人もいません。多少関わっている音楽の先生がちょっと何かに詳しいと、その詳しいことがその年追求出来るみたいな程度だと思えます。この前、教育長たちにも賛同していただいて、「泣いた赤鬼」というオペラを、子ども達に見せる取り組みをしようとしたんですが、教育委員会の部署の中で解る人がいませんでした。専門家が誰一人いない中で、でも何かしらやらなくちゃいけないからやっているという状況です。4年ほど前から千葉市音楽協会の事業で、市内の演奏家の人達がたまに

学校を回っているようなんですが、たまたまその学校にいた子だけがそれに出会えるというだけなので、格差がすごくあるなと感じます。可能であれば、きちんと教育分野にもうちょっと踏み込むってことを明確にするとともにアプローチして、良いものが子供たちに広くまんべんなく伝わってほしいなという感覚はあります。

#### 【神野委員長】

この重点目標の中に、子ども若者っていうのが、非常にこう前面に押し出されている中で、例えば基本施策1に、「学校教育との文化芸術における連携」とかですね、そういうのを例えば(3)でも、順序はちょっと置いといてですね、項目立てをするっていう事が非常に重要な気がいたします。どういう表現かというのは今後の話ですけども、まあ(2)の②の中で小さく入れるよりは、やはり重点目標の中に大きくある以上は( )で位置付けた方がいいような気がします。

さて、様々な意見を頂きましたけれども、幾つかについてご指摘があったことを踏まえて、行政全体としてどのように千葉市がアピールをしていくのか、ある種のブランディングのような事はやっぱり戦略的に必要だろうと。それをこの中に盛り込んでいくのか、あるいは説明する場所を出していくのか。これはまだ検討の余地があると思いますけれども、その視点が必要だろうと感じます。その中でおそらく歴史も含めて千葉らしさを続けていくことが必要であると。

あとは、基本的には、あらゆる世代が文化芸術を通して自らの日常を豊かにしていくということが千葉市の言いたいことだと思うんですけども、子どもが突出している中で、高齢者の割合が非常に増えているので高齢者をなおざりにするような印象はやはり避けたいということで、これをどんな文言にするかということですね。要は、「子どもを始めとするあらゆる世代が」という文言でいくのではないかと私からは提案しましたがけれども、いやもう第一に高齢者という文言を挙げてもいいんじゃないかという意見もあったように思います。おそらく仕掛けだと思うんですよね。項目を一つ一つを取ってみればみんな正しいことが書いてあって、でもそれだけを視野に入れて事業立てをするとなんか個性があまりないので、これとこれを組み合わせた時にそうになっていくんじゃないかっていうような事業立案みたいなことが多分この先に求められていくのではないのでしょうか。事務局にも高齢者の表記についてのご意見を頂きたいと思いますけれども。

#### 【布施文化振興課長】

高齢化が進む中で、身近な公民館の講堂やコミュニティセンターのホールのように50～100位のキャパでも構わないから発表の場がほしいということで、そこに発表の場が設けられることによって地域の子供たちが芸術文化を知るきっかけになるということもあるかと思しますので、表記の仕方については、そういったご議論を進めて頂くことによって具体的な文言で頂いても結構だと思います。また、それを骨子の中で盛り込むという考え方も一つありますし、計画の趣旨や細部のまとめで全体的なご提言として頂く形もあると思いますので、今後ご議論を続けてもらえればと思っております。

#### 【関委員】

重点目標には、「次代を担う子どもや若者が文化芸術に親しみ、また創造性を育むような幅広い施策展開を図る」とあるんですが、何で“幅広い”が必要なのかなって。幅広いのは今この計画においては当

たり前のことであって“幅狭い”って書く可能性がない中で何で“幅広い”って書くのかなって疑問なところがあるんですけど、そう書かないと納得してもらえない事情みたいなものがあるのでしょうか。

【神野委員長】

そうですね、ここに載っている限りにおいては“幅広い”がなくても意味は通りますね。“幅広い”を付けてしまったがために例えば重点的に何かを絞ることが出来なくなることもありますかね。

【関委員】

逆になんか“幅広い”って付けると、何かの時に入り口を狭くしなくちゃいけないということもあるかもしれないですよ。そうした時に、「でも幅広くやらなきゃ」とモヤモヤってしてしまうことはちょっとあるかなって思いました。

【神野委員長】

幅広くやるのかあるいは重点的に何か絞ってやっていくのかっていう議論が多分この先にあるのだとするならば、“幅広い”はとりあえず無くてもいいですね。

【文化振興課長】

では、“幅広い”は取ります。

【早川副委員長】

文化振興財団と文化情報センターについてどこかに記載がありましたね。役割分担はどう違うのでしょうか。

【生活文化スポーツ部長】

現計画に記載がございます。文化振興財団の中に文化情報センター的なものを創るというイメージです。ただそれは、今の文化振興財団のアーツステーション課をイメージしています。様々な市民活動やプロ・アマチュアを含めたアーティストの情報を集めて市民の方に提供し、その仲立ちもするっていうことをイメージして情報センターという言い方をしています。今は文化振興財団にアーツステーションというものをつくって、そこに色々な情報を集めて市民の方にお知らせしています。

【早川副委員長】

わかりました。そういう考え方だということでもいいです。

【神野委員長】

それでは、この骨子案に関しては今日の議論をベースに事務局にまた精査していただくという形で大丈夫でしょうか。

【生活文化スポーツ部長】

先ほどの学校教育の話なのですが、何らか記載を追加の方がよろしいということなんでしょうか。

【神野委員長】

私の方からそう提案させていただきましたけれども、それで問題ないですね。

【生活文化スポーツ部長】

実は、基本的にはこういう項目立てを出すためには教育委員会と十分協議しないといけないんですね。市長部局と教育委員会は別組織になりますので、千葉市は学校教育にこうなさいと言える立場にはないんです。ですから、学校教育に関する部分を大きな項目にするのには、教育委員会と協議した上で、教育委員会の了解が必要になってきます。

【関委員】

教育活動って広いんじゃないんですか。

【生活文化スポーツ部長】

はい。

【関委員】

学校の学校における学校教育。

【生活文化スポーツ部長】

そうですね。表現とすると学校教育になりますので。

【大澤委員】

その結果がどうなるかは別としても、協議を進める、常にコンタクトを取りつつ何か前進して行こうみたいな項目を明確にしないと動かないんじゃないかなって感じがします。

【椎原委員】

3次答申をよく見ると、学校とは書いてありますが、ワークショップとかそういうイメージを持っていたみたいです。そうすると、参加体験型として4次に入ったのではと憶測します。参加体験をすることだけが、学校教育、学校文化、学校における芸術教育かという、少し違う様な気がしてきます。

【神野委員長】

この骨子を作りながら、最終的にこれをもとに計画を作っていくわけですがけれども、その間、教育委員会と協議を進めるという可能性はあるんでしょうか。

【生活文化スポーツ部長】

あると思います。

【神野委員長】

そうすると、例えば、この、基本施策1に(3)として入れることは難しかったとしても②の文言が修正されるとか、学校という言葉が入ることについての協議をこれから進めていって、修正がありうるといっていいというのは大丈夫ですか。

【布施文化振興課長】

②のレベルということですか。

【神野委員長】

②の改正で。まあ(3)のところ項目立てをすると、時間的に厳しいとかいう事もあるかもしれないということですね、事務局的には。いかがでしょうか。学校と仮に入るとこれは文化振興課としても、やらなきゃいけないのでね。じゃあ、その方向でとりあえず骨子案はひとまず事務局の方に戻して、再度形にしてもらおうということできたいと思います。

そしてやはり、この先にどういうイメージがあるのかってことっていうのが非常に重要になってくるわけですね。残りの時間の中でざっくりばらんに、先ほどブランディングの話もしましたが、こういうことを重視して今後やっていった方がいいんじゃないかなってことがあれば、ご意見という形で皆さんからお話を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

【早川副委員長】

メディア芸術って具体的にはどんなことをするんですか。

【生活文化スポーツ部長】

映像を使った芸術で昨年度から事業を実施しています。例えば、東京で行われているプロジェクションマッピングとか、ショートムービーとか、いわゆる今までの絵とか音楽だけではなくて動画を使った芸術性のある物をメディア芸術としてイメージしています。昨年は、動物公園で子供たちを対象に、用意した動物の絵に色を塗ってもらって、自分の声を吹き込んでその音に反応してそれが動画として動くというようなものをやりました。

【神野委員長】

私から意見を言いたいと思うんですけれども、唐突な感じがいつもするんです。この場は事業をつくる場ではないですけれども、そこで議論されていることとは別に、いきなりこういうメディア芸術の話が出て、千葉市らしさをつくるのにメディア芸術がふさわしいのかどうかは実際何処で議論されたのか非常によく分からない中で行われています。以前、関委員から「そういうメディア系のものは本当にものすごいお金をかけないとすごくかっこ悪いものになると思いますよ」というお話を頂いたと思います。教育的にはすごく意味があることだとは思いますが、それが千葉市らしさに繋がるかって

いうと多分ありえない。そんなものはいくらでもやられているので、そこら辺のところ、先ほどのブランディングという話ではあるんですけども、それはどのような場所でどのような形で決まってくるのか、というのをちょっとお聞きしたいなと思います。

【生活文化スポーツ部長】

メディア芸術に関しましては、昨年度からスタートさせました。これはブランディングというよりは、私はサブカルチャー的なものにあたると思っています。我々はやはり子どもとか若者にもう少し文化を体験させたいと思っています、それで若者にターゲットを絞った中で、メディア芸術の事業をスタートしたものです。そんなにお金をかけないでやっていこうということだったので、振興会議にかけずにこちらで決めてやらせて頂いたという経緯でございます。

【神野委員長】

ほかにご意見はありますか。例えばオリンピック話題というのが出ましたけれども。まあオリンピックに向けて、東京都がいろいろ動き始めていますけれども、千葉はどう関わっていくのか。

【竹下委員】

先日、市長さんとお話する中でオリンピックの話も出ました。東京の榊添都知事は千葉市美術館が大好きで、「是非オリンピックの時は外国人に見せる特別企画を考えてほしい」という風に要望されていると市長さんおっしゃっていましたが、そういう意味では東京オリンピック・パラリンピックに際して、千葉市が持っている文化的財産をどんな風に成田空港に来る外国人にお見せするかっていうことと、もう一方で外国の方々と市民が交流出来るような場が設けられないだろうかと思っています。新聞社のご協力などを得てそういう交流の場が持てないだろうか、そういう企画が出来ないだろうかと思っています。話が変わりますが、(骨子案の)基本施策5までではどうも千葉っていう色合いが薄いなって思うんです。もう少し色合いを付けるという意味で具体的に申し上げたいんですが、基本施策1(1)の②に情報交流についてご記載いただけないかと。「②身近な場所で気軽に文化に触れる機会と情報交流の充実」という形で。例えば、公民館での活動に他の人も来て見てもらえるように、情報交流を市民間で充実できないだろうかという意味での要望です。それから基本施策5(1)②「地域の資源の発掘・活用」を「千葉文化の魅力を発掘し伝える活動の充実」に変えて頂いたらもう少し色合いが出てくるのではないかと思いますのでご提案させていただきます。

【神野委員長】

情報交流に関して、これは別に加わっても問題ないのではないかと思います。「そして魅力ある資源の活用」のほうですね、もう一度お願いします。

【竹下委員】

②を「千葉文化の魅力を発掘し伝える活動の充実」と変えてみた方がいいかと思ったのですが。



【神野委員長】

まあ、千葉文化っていうニュアンス的なもので、イメージーションが広がる様な気がしますけれども。これも問題ない気がしますけれども、いかがでしょうか。

【高橋委員】

千葉文化っていうと、県の文化と勘違いするのではという心配があるかなとは思いますが。

【早川副委員長】

突っかかるみたいでちょっと恐縮ですが、「市長が言ってたからその方向で」という議論は、この委員会でやる必要はないと思います。

【竹下委員】

そういうことではないんです。

【早川副委員長】

市長にやらせる計画を作るのがこの委員会だというのが私の意見なんです。

【竹下委員】

おっしゃる通り。

【神野委員長】

ここの部分に市長は関係ないですね。まあ、千葉市と千葉県という所が混同される恐れはある。

【高橋委員】

そうしたら、基本施策4のところ千葉文化ってお使いだからそのまま引用するのは。

【神野委員長】【早川副委員長】

そうでしたね。それもありますね。

【神野委員長】

それでいきましょうか。はい。

【伊原文化振興課長補佐】

千葉県は千葉をひらがなに「ちば文化」と表現しています。

【神野委員長】

こちらの骨子案の一部修正について、何かニュアンス的にこういうことなんじゃないかってことがあれば、お願いしたいと思うんですけれども。まあ、この先もその機会はあるんですよ。

今まで文化振興会議では市にお金があんまりないということを前提としていて、これをやるべきではないかということよりも、今あるものをどう整理するのかっていうことに力を注いできたという風に私自身は認識しているんです。やはりこれからの人口減の時代の中で、千葉市というのをどう受け止めていくのか、こういうときに文化芸術の力は決して小さくないので、やはり何かもう少し戦略的に打ち出すような事業っていうのをそろそろ出していいんじゃないかと思います。この骨子案をベースにしながら、幅広くは出来ないと思いますので、ある種戦略的にこういうことを全体のブランディングとしてやってもいいんじゃないかってことについても具体的に考えていくことも必要なような気がします。この計画の中で、こういう時にこういう目標を持って、今までなかった事業、あるいは、今までの枠ではできなかった事業をこういう形で実現していくってことを、それはアートフェスティバルなのか、もっと地道な公民館活動なのか、まあいろいろな方向性はあるとは思いますが、そういうことともリンクして出来ないかなあと思っているんです。

【大澤委員】

オリンピックに関してよろしいですか。一つの方向性としてなんですけれども、具体的に詰める上で、やっぱりお金がないので、現在既存にあるハードをまず活用していくということを、明確に打ち立てればいいなと思います。そこにどんなソフトを持ってくるかということが私達の腕の見せ所になるような形で。やはりあまりにも漠然と東京オリンピック・パラリンピックだけ発信強化して行こうってよりも、もう一段階下ろすってことをここで今日決めていくことは出来るんですか。

【神野委員長】

ここでは、こういうことが求められるのではないかと、っていうことを議論することができる。実際そこで何々をやれということだね。

【大澤委員】

じゃないですけどね。やっぱり美術館なんかやっぱりハードがあって、そこで既にものが動いている、それをさらにオリンピックに向けて何か方向性を持たせようってことは、私はすごく良いと思っているんです。幕張メッセのエリアにすでにハードがあるので、その部分はとりあえず牽引するという意味で、オリンピックまで何年しかないんで、まずあそこにちょっと何か一本持ってってみようよっていうようなこと、旗を立てるってことは出来るのかなって思ったんです。この間のエアレースのように、マスコミがああいう風にやってくれたりすると、市民の人たちも「やってるんだ」と思って、そこで何か一つの動きが出来ますよね。そういう意味ではあのエリアが注目されているので、うまく活用していくっていうのはいいことかなとは思っています。

【布施文化振興課長】

次回の会議では、26年度の事業実績と今年度の実施予定について具体的に今千葉市が取り組んでいる事業などをご報告させていただきますので、その時にまたお話を頂いても結構だと思いますし、その後の第3回の会議でもご意見を伺う機会があります。その中でブランディングに繋がるようなお話や他市の事例についてご議論いただければと思います。今はまだ漠然としたイメージしかないと思いますので、

次回会議の報告の中で何か引っかかるものがあれば、また自由闊達なご意見を頂きたいと思っております。

【神野委員長】

おそらくこの会議を市がどのように活用してくれるのかということでもあると思うんですね。例えばオリンピック。私はオリンピックに何か花火を打ち上げてもしようがないと思うので、今後この計画をこの通りに実行する上で、こういうことをやった後にさらに継続され、持続発展するっていうようなことをやる、やるならばやるべきだと思っています。その計画を立てる上で、この骨子案よりももっと具体的なところで委員の方々からご意見をもらいたい、っていう風に設定をしていただければ、多分そこで議論することもいっぱいあると思うんですよね。その辺ちょっと事務局として今後我々をどう位置づけるのか、ということも含めて考えて頂くといいと思います。

みなさんには千葉らしさっていう宿題を、とりあえずオリンピックもちょっと形にしながら、現状の施設や資源があって、潤沢な文化予算ってものは当然ないわけですがけれども、まあそこら辺についてお考えの方は更にちょっと掘り下げてお考えいただけたらなと思っています。今日はこんなところで締めたいなと思いますけれども。

【関委員】

オリンピック・パラリンピックについて今後どういう議論になるか分からないんですけども、オリンピック・パラリンピックというものがどういったことで行われるのかで考えると、世界平和なんだろうと私は思うんですね。その世界平和みたいなことを考えた上で、文化芸術としてどういうことをやればいいのかを考えていけばいいのかなって思います。それが無いのに、オリンピックが来たから何かやるぞみたいなことになってしまうと何だかな、と私としては思います。

【神野委員長】

ありがとうございました。そもそも文化の祭典としてのオリンピックというのが一つの側面ですがけれども、それは理念としてどのようなものを持った上で考えられるべきなのかっていうのはやはり踏まえるべきだという重要なご提案でした。これについては次回以降、みなさんから色々ご意見を伺いたいと思います。

とりあえず今日は、前回議論した内容を踏まえて骨子案についての議論を終えたということで、次回それを整理したものをまたお示しいただくことといたします。それでは事務局にお返しします。